

こうげんびょう ～膠原病について～

「膠原病」という言葉は聞いたことがあるけれど、どういう病気かよく分からないという方が多いのではないか？

膠原病は、アメリカの病理学者ポール・クレンペラーが1942年に提唱した病気の考え方です。それまでは、病気は特定の臓器に起こるという考えが支配的であり、病気の診断は臓器ごとに行われてきました。クレンペラーは、多数の臓器に同時に異変が生じ、どの臓器が病変の原因であるか分からないままに亡くなる患者が多いことに気づき、このような病気をまとめて「膠原病」と命名しました。

その後の研究により、膠原病は、人間の細胞と細胞をつないで様々な臓器を形づくる「結合組織」の炎症が原因であることが分かつてきました。炎症が起こるのは、身体の中の異物を攻撃して、排除しようとする免疫機能の働きによるもので、アレルギーは、外から身体の中に異物が入ってきたときに起こるのに対して、膠原病は自分の身体の中にあるものを異物と勘違いして起こるものです。

膠原病に分類される主な病気をご紹介します。

いくま
内科 井熊 大輔

関節リウマチ…関節内の滑膜細胞に炎症が起こり、全身の関節が腫れて痛む病気です。

全身性エリテマトーデス…細胞の中の核に免疫異常が起こり、皮膚や腎臓、脳など全身の臓器に障害が生じる病気です。

強皮症…主に指の皮膚に障害が起き、皮膚が弾力を失って硬くなり、さらに悪化すると潰瘍になってしまう病気です。肺や腎臓などを侵されてしまう場合もあります。

シェーグレン症候群…主に涙腺(涙を作る組織)や唾液腺(唾液を作る組織)に慢性の炎症が起こり、目や口が乾くといった症状が出る病気です。

皮膚筋炎、多発性筋炎…全身の筋肉に炎症が起こり、筋肉痛や筋力低下により立ち上がり難くなるなどの症状が出る病気です。

関節の痛みや腫れ、倦怠感、微熱、目や口の乾きなどの症状が1か月以上続いている方や、何度も流産を経験されている方も、膠原病に罹っている場合がありますので、一度専門外来を受診されることをお勧めします。

問合せ 市民病院 ☎ 24-6111 Fax 22-0887